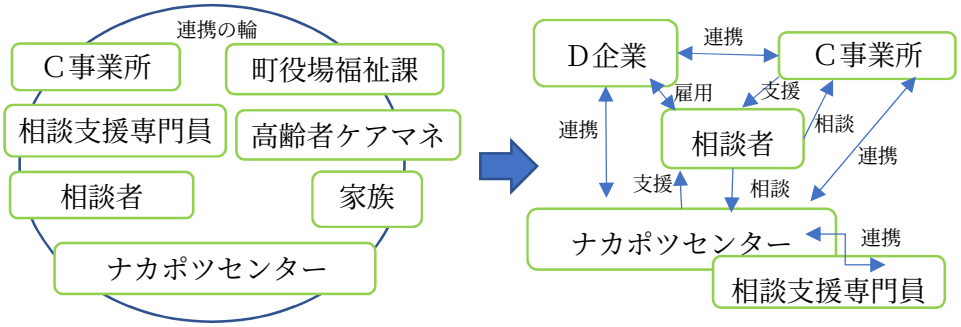
定着支援のノウハウが少ない就労定着支援事業所と連携を行ったケース

圏域　　海匝　　センター名　　東総就業センター

氏　　名	A・T	居住形態	(家族同居) GH　単身　その他		
手帳種別及び等級	療育手帳　B-1	年齢	22歳	性別	女
成育歴および 現在の生活状況	地元の小・中学校を卒業し、特別支援学校高等部へ進学。高等部１年生の時には精神面が安定せず、体調不良を訴え車椅子を利用することもあった。２年生・３年生と進級するとともに精神面も安定し、高等部卒業後は就労支援事業所であるC事業所へ通所（３年間）することとなった。ナカポツセンターから職場実習の為に実習先を提供し、職場見学、職場実習を経て、高齢者のデイサービスの補助業務にて就職が決まる。本人及び身体障害を持つ父親と母親（無職）の３人家族。父親は令和元年４月に脳梗塞を起こし、後遺症として要介護１、右半身麻痺、失語症、歩行のふらつきが見受けられる。A・Tが毎日父親の頭や背中等自分で出来ないところの入浴介助を行っている。母親は、昼食の準備や洗濯、家事全般は実施しているが、書類等の手続きや買い物はA・Tが行い、父親の介護も父親の強い希望でA・Tが行っている。 祖父の知人B氏がA・Tの家族のサポートをしており、A・Tの買い物や病院等の送迎を実施している。				
就業前の訓練事業所	C事業所	サービスの種類	就労移行支援事業	期間	2年11カ月
就職先	D社		入社日	R2.2.1	
業務内容	お茶出し、清掃等の介護補助				
就業先企業情報	業種：高齢者福祉サービス等。 障害者雇用歴：各施設で現在25名雇用中。 その他：高齢者福祉サービス等を幅広く展開。 障害者雇用にも積極的に取り組んでいる。				
就業前の課題	コミュニケーションスキルが低く、自分から積極的に話しかけることを苦手としている。 注意を受けた際に感情のコントロールが苦手で、泣き出すことがある。				
就労定着支援 個別支援計画	ー				
課題解消に向けた 支援体制					

<table>
<tr><td>①
障害者就業・生活支援センターと就労定着支援事業所間の連携経過</td><td colspan="2">A・TがC事業所通所中にナカポツセンターを登録し、ナカポツセンターの連携している企業での職場体験実習を経て採用となったため、C事業所とスムーズに連携を行うことが出来た。また、問題が発生した際もタイムリーな情報共有が行えたことで、一緒に問題解決へ取り組むことが出来た。</td></tr>
<tr><td rowspan="7">具体的支援経過</td><td>H29.6</td><td>C事業所より平成29年6月に将来的に就職希望のためナカポツセンター登録の相談があり、登録。</td></tr>
<tr><td>H30.9</td><td>A・Tより介護関係の仕事への就職希望が出ていたため、ナカポツセンターと連携をしているD社を紹介する。D社の介護老人保健施設にて平成30年9月に介護補助の職場体験実習を3日間実施した。</td></tr>
<tr><td>R1.4</td><td>父親が脳梗塞を起こし入院。</td></tr>
<tr><td>R1.10</td><td>令和元年10月D社のデイサービスにおける介護補助の職場体験実習を紹介し5日間実習を行った。</td></tr>
<tr><td>R2.2</td><td>D社のデイサービスにて介護補助員として採用となる。C事業所がメインとなって、職場定着支援が開始された。定着支援のノウハウが少ないため、定着支援の相談を受け、アドバイス等を実施した。</td></tr>
<tr><td>R2.6</td><td>令和2年6月頃から休むことが増え、A・Tより家族のサポートと仕事の両立が難しいため退職したいとC事業所へ相談が入る。
C事業所よりナカポツセンターへ相談があり、ケース会議の開催を提案した。</td></tr>
<tr><td>R2.7</td><td>情報共有と課題の整理及び役割分担を目的に、関係者会議を開催。参加者は相談支援専門員、C事業所、町役場福祉課、父親のケアマネージャー、ナカポツセンター。
父親の入浴介護の時間を早めB氏の負担を減らす、また父親が自分で出来ることが増えてきているので、デイケアの利用日数を増やしていく方向となった。介護することよりも、父親が何度も同じ話を繰り返し話されることを聞くことが負担となっていることも確認できた。
知人B氏がA・Tを心配するあまりマイナスな声掛けをしてしまうことが、A・Tの不安な気持ちを増大させていることも要因となっている。以前と比べA・Tが担っている介護の負担も減っており、C事業所に通所していた日数よりも勤務が少なく、業務も決して難しい仕事ではない為問題なく出来ている。関係者会議の結果、初めての就職による不安やC事業所を退所した寂しさ、父親の話を聞く精神的な負担からくる不安定さが原因であったことが確認できた。</td></tr>
</table>

具体的支援経過	R2.7	知人B氏の助言により、精神科を受診。診断名は特につかず、漢方薬が処方される。今後、定期通院となる。
	R2.7	ケース会議を実施。A・T、知人B氏、相談支援専門員、C事業所、ナカポツセンターが参加。漢方薬を処方されたことにより、睡眠の改善と精神的にも楽になったとのこと。話し合いの結果、退職せず8月中旬まで休職、8月下旬から職場復帰することを希望された。
	R2.7	C事業所職員と一緒にナカポツセンターも職場訪問を行い、ケース会議の報告とA・Tの職場復帰に向けた支援について職場の施設長へ相談。8月中旬までの休養と8月下旬からの職場復帰（週4日→週3日でのスタート）の了解を得る。
	R2.8	職場復帰までの間、C事業所がメインでA・Tとの電話対応や面談を行い、精神面のサポートを行う。
	R2.8	職場復帰のためC事業所職員と一緒にD社訪問。その後週に1回ずつC事業所とナカポツセンターが交代で、会社訪問を実施する。
	R2.9	Ａ・Ｔの状態が安定してきたため職場訪問の頻度を2週間に1回とし、その分、Ａ・ＴとC事業所にそれぞれナカポツセンターより電話で状況確認することとした。
	R2.10	職場訪問の頻度を1ヶ月1回に下げる。
	R2.11	C事業所がメインで定着支援を実施していくこととなる。A・Tの相談できる場をつくるため、休みの日にC事業所でのボランティアを提案し、A・Tの希望により実施していく予定。ナカポツセンターは通常の支援に戻り、何か問題が発生した際にはサポートを行うこととなる。
② 現在の状況及び 支援効果	現在の勤務状況等については安定している。週の勤務日数を減らした状態のため、今後勤務日数を徐々に増やしていくことが目標となっている。また、A・Tだけでなく家族全体を支援する必要があるため、関係機関の連携が重要とされる。これまでC事業所はA・Tへのアプローチのみとなっていたが、今後は生活面の課題に対して、家族全体の支援が必要であることをC事業所へ伝え、関係者会議及びケース会議についてはナカポツセンターとしてサポートをした。家族全体で関わっている関係機関等との連携を図ることで、A・Tの課題の整理と今後も何か問題が発生した際への支援体制を構築することができた。また、企業とのやり取りについてもノウハウが少ないとの相談を受け、一緒に会社訪問を行い、企業との調整を行った。	

③ 障害者就業・生活支援センター側からの支援・連携上の課題	今回のケースでは就労定着支援をスタートしたばかりの事業所であったこともあり、定着支援のノウハウが少なく対応についての相談が多くあった。他の就労定着支援事業所では、職場訪問や企業との交渉をナカポツセンターに頼る事業所も少なくないため、どこまで一緒に関わるのか就労定着支援事業所とナカポツセンターとの役割分担の確認が重要であると感じている。また、就労定着支援事業所での月1回の面談等の中で把握した問題についてタイムリーな情報共有が大切である。 就労定着支援を利用している場合、相談支援専門員との連携も重要となる。今回のケースでは関係者会議・ケース会議の開催の必要性を相談したが、相談支援専門員からはまだ必要ではないとの意見があり、ナカポツセンターがコーディネートをすることとなった。
就労定着支援事業所からの要望・意見	とてもフットワークが良く、頼りにさせていただいています。 今後も就労支援についてアドバイスをいただきたいと思っています。